

フジイコーポ

「逐次張り出し成形」導入

高付加価値鋼材を供給

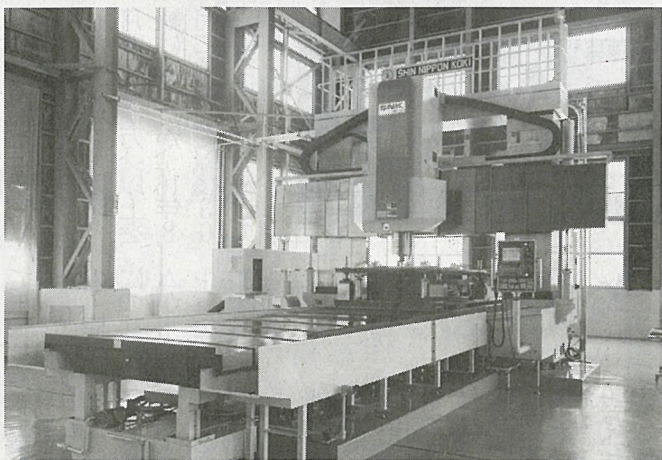
【燕】フジイコーポレーション(本社)新潟県燕市、藤井大介社長)は、鋼材事業(燕市物流センター)に大型マシニングセンタを2016年12月に導入した。導入費用は約6000万円。同社がこれまで取り組んできたダイレス(金型レス)プレス技術に加えて、新潟県工業技術総合研究所から技術供与を受

けた「逐次張り出し成形」を新たに導入した。「逐次張り出し成形」の技術導入・実証研究は12月27日に完了。より付加価値の高い鋼材をユーザーに供給するのが狙いだ。生産転用の許可後、本格稼働を開始した。

導入したのは新日本工機製の高速マルチセリター「RB-4M」19分割削減が可能となる。今回の導入の背景は、これまで取り組んできたダイレス(金型レス)プレス技術の更なる追求だ。同社は多品種少量生産に対応するため、使用する金型を減らす技術を高めてきた。アクア成形(対

今回の「逐次張り出し成形」は金型0での試作品作成が可能だ。この試作向け設備の導入により、社内生産体制の効率化や付加価値の高い加工が可能となった。顧客拡大、需要の深堀を狙う。

今回の導入は「2015年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」を活用し実施した。



導入したマシニングセンタ

より、営業活動は開始している。既存ユーザーである農業機械メーカーや建機メーカーを中心に補修用部品の需要が期待される。

鋼材事業の設備としては高速マルチセリター、1基、2次元レーザー加工機1基、3次元レーザー加工機1基、複合機1基、レベラー1基、プレス機4基、17.0トベンディンクマシン1基、クレイン5基となる。工場は8人体制で運用する。